

## 海外安全対策情報（平成30年4月～6月）

### 1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

- (1) 4月21日、スファックス・スース間の高速道路で、複数台の車両が関係する交通事故が発生し、3人が死亡、10人が負傷しました。
- (2) 5月3日、ベン・アールス県で電車同士が衝突し、1人が死亡、60人以上が負傷しました。
- (3) 5月14日、シディブ・ジッド県jelma地区で、水利権を巡り地元住民が抗議デモを行い、一部のデモ隊が治安部隊と衝突し、双方に複数負傷者が出ました。
- (4) 6月2日深夜から3日未明にかけて、ケルケナ島沖で難民を乗せた船が沈没し、チュニジア人を含む100人以上が死亡しました。

### 2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

6月、チュニス市内の観光地で、邦人が徒歩で観光していたところ、頭部を殴打されるなどの暴行を受け、所持品を強奪される被害に遭いました。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

上記期間中、大規模なテロ・爆弾事件は発生していませんが、治安当局によるテロ組織の摘発や掃討作戦が相次いでいます。主なものは以下のとおりです。内務省によれば、これら以外にも、上記期間中に複数の地域でテロリストが摘発されています。

- (1) 5月21日、カスリン県サルーム山で、テロ掃討作戦を実施中の治安部隊とテロリストの間で銃撃戦が発生し、テロリスト1人が死亡しました（治安部隊は死傷者なし）。
- (2) 6月12日、タタウィン県の軍事緩衝地帯で、治安当局が散弾銃など多数の武器を積んだ密輸車両を発見、押収しました。
- (3) 6月24日、カスリン県シャアンビ山で、羊飼いの少年がテロリストに拉致され、惨殺されました。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

### 5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

## 6 日本企業の安全に関する諸問題

当国で日本企業を標的とした事例はありませんが、全世界で外国人を直接のターゲットとしたテロ事件が発生しています。また、隣国のリビアでは、不安定な情勢が続いています。こうした状況に鑑みれば、今後も外国人・外国権益を標的としたテロ・誘拐事件が発生する可能性は否定できませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要となります。

また、外務省ホームページ等で「スポット情報」、「危険情報」等を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いいたします。